

根田さんの家の記憶は、大きな忠魂碑のある家で、とても地所の大きな、そして親父さんは大男であった。

竹田さんは、昔からの機業場で、立派な土蔵が目立つ。

犬丸さんは、表向きの犬丸さんの分家で、先輩の上級生がいた。

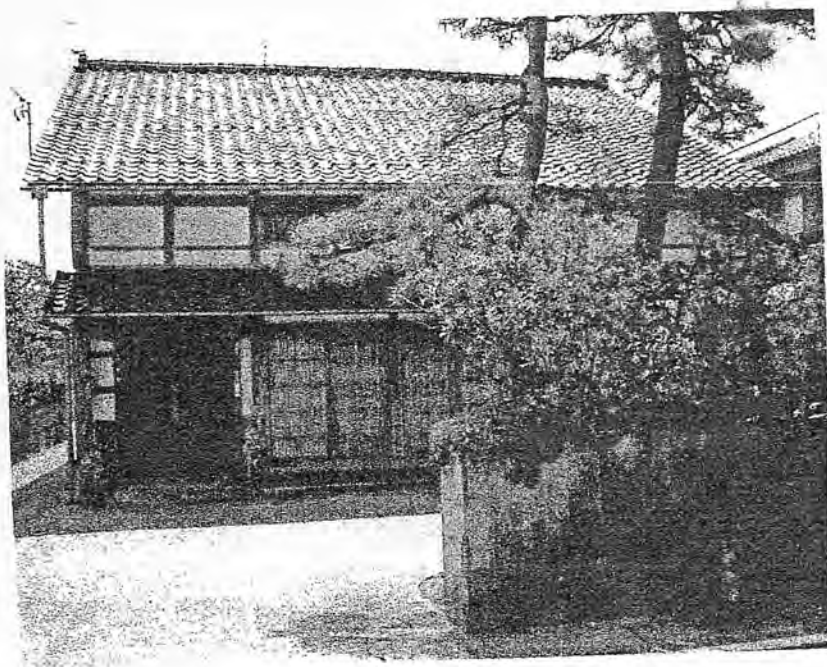
福井さんは、同級生の友人が居た、確か大工さんをしていた。親父さんがいた、同級生の康男は若死にしたが頭のいい男であった。

沖田さんは、先代が役場の収入役ではなかったか、県会議員であった祖父のところに、毎朝立ち寄ったのが思い出であり、物静かな人であった記憶がある。

福益さんは、庄助さ、という屋号で、向かいの米沢出の親類であった、祖父は、直ぐに「しょうすけさ」に連れて行ったし、「しょうすけさ」に一人で行つても文句を言わなかった。

大きな樅の木があったという、少年期の記憶であるが、現在見ると大した木ではないわいと懐旧談である。

北野さんの「よせんさ」の親父は、私の仲人であった。
酒好きの、宴席で決められたのであろうと想像している。



豪快な大男であったし、仕事熱心な家庭であったが、寂しい家になってしまった。

この家の、茶の間には度々お邪魔をした。

旧の笠間さんの先々代は「笠間式織機」を、発明された。

当時は織物の羽二重を、織らないものがないほどブームの時代であったらしく、羽二重用の半木の機械を器用に創られたと言う。